

時代の流れを実感する旅 ～『われ 21 世紀の新渡戸とならん』～

2023 年 6 月 25 日アメリカのシアトル空港から羽田空港に帰国した。羽田空港からシアトル空港の飛行機の中では、『ライオンキング』&『The Quiet Girl』&『Beethoven』の 3 作の映画を見た。シアトル空港から羽田空港の帰国中では、『65/シックスティ・ファイブ』&『ドクター・ドリトル』(Dr. Dolittle)』&『Frozen』(『アナと雪の女王』、原題: Frozen) &『CHAMPIONS』(『だれもが愛しいチャンピオン』)の 4 作の映画を見た。

『CHAMPIONS』は【プロのバスケットボール・コーチとハンディキャップ・チーム“アミーゴス”の出会いと絆を描き、2018 年、スペインのアカデミー賞とも言われるゴヤ賞で作品を含む 3 部門を制した『CHAMPIONS』】と紹介されていた。

東京とシアトルの時差は、16 時間である。羽田空港からシアトル空港は、約 9 時間、シアトル空港から羽田空港は、約 10 時間かかる。筆者が、映画を鑑賞するのは、国際便の飛行機の中のみである。行きは『The Quiet Girl』、帰りは『CHAMPIONS』が、特に印象に残った。Lakewood に在住の娘とミシガン在住の娘と 5 人孫達【『6 歳、5 歳、3 歳』&『5 歳、3 歳』】とは 2019 年以來の久しぶりの対面となった。幼少期の筆者が脳裏に浮かんだ。人生の初心を静思した。

Wife が東京から予約してくれた宿泊の家(Mercer Island)で、全員で過ごした。シアトル市内の Ruston Way を散策して太平洋を眺めた。Lakewood の娘の自宅を訪問して、そして、Fircrest community park を散歩した。4,392m の雪に積もる Mt Rainer (レーニア山)も眺めた。SEATTLE AQUARIUM(水族館)にも、また、壮大な Snoqualmie Falls(スノコルミー滝)も見つめ静思した(画像)。

想えば、新渡戸稲造(1862-1933)は、90 年前の 1933 年秋には、カナダのバンブで開かれた太平洋問題調査会会議に、日本代表团団長として出席しているが、1933/1/13 シアトルのワシントン大学で講演、シアトル日本協会総会で講演を行っている。今回『われ 21 世紀の新渡戸とならん』(イーグレイプ発行 画像)が鮮明に蘇った。不思議な時代の流れを実感する『シアトルの旅』となった。

